

☆☆☆☆☆☆

参加者からの投稿です

☆☆☆☆☆☆☆☆



## 新幹線でふるさとへ

棟方美千子



私が北斗市(旧上磯町)を離れて三〇年。連絡船で津軽海峡を四時間で渡り、青森から汽車で十数時間かかって着いた埼玉。それが、今では新幹線でわずか四時間で我がふるさと北斗市に帰れるなんて思ってもいませんでした。

東京北斗会の「ふるさと訪問旅行」に参加し、新幹線を降りて新函館北斗駅に着くと、高谷市長さん始め議員さん、北斗市役所職員の方々の盛大な歓迎レセプションが準備されていて、また、駅の目の前に「ようこそ北斗市へ」の田んぼアート、ずーしーほっきーのお出迎え。なんだかゆったりした気持ちになり、「あ～ふるさとはやっぱりいい～なあ」とつくづく思いました。

その後、バスで廻った義朗の採掘現場、太平洋セメントの中など、個人では観ることのできない所を案内していただきました。また、夜にはアンビックス函館倶楽部(ゴルフ場)で、盛大な懇親会を開いていただきました。このゴルフ場では、7月に女子プロの試合もあり、私たちのふるさと北斗市を誇らしく思いました。

二日目は雨になりましたが、その天気もどこかへ吹き飛びそうな「上磯弁」のバスガイド(市役所職員)

で盛り上がり、お昼は、地域の皆さまの思いやりあふれる、ホッキ飯、ホッキシューマイなど沢山のふるさと料理をご馳走になりました。その後、当別のトラピストに行き、普段女性が入ることのできない所まで案内していただきました。

また、帰りには、ふるさとの特産品をお土産として沢山いただきました。愛と真心をいただいたふるさと訪問。皆さんも、またいつか機会がありましたら、ぜひ参加して欲しいと心から思います。

今回の旅行を企画してくださいました幹事の皆さま、本当にありがとうございました。



## “楽しかったふるさと訪問旅行”

義朗出身; 甲谷光孝(78才)



心待ちにしていた北海道新幹線が開通し、しかも、ふるさとの北斗市が北海道の最初の停車駅となったのだから、イガねば、罰当たるべーと言う事で東京北斗会がふるさと訪問旅行を企画して下さったので参加させて貰った。

6月24日快晴の東京駅から乗車する42名が集合し、9時36分発はやぶさ11号で胸躍るふるさとへと出発、13時38分新函館北斗駅に着いた。速い。私が転勤で東京に来た昭和40年は苫小牧から上野まで38時間も掛かっていた。3回食事を済ませても着かなかったのに、東京駅で買った缶ビール2本を呑み切らない内に着いた、流石に早い！そして飛行機と違い、地上の景色を観られるのが楽しい事である。

新函館北斗駅のホームに降りた人達が一斉に寒い！！と言った、涼しいではなく寒いと言ったのだ…笑、北斗市に暮らした事のある人達ですよ、裏切り者め！北海道の気候を忘れてるのだ。新函館北斗駅で高谷市長さんを始めとする北斗市の方々の歓迎の言葉を聞いていたら仄々として来た。石川啄木の「ふるさとの訛り懐かし停車場の人ごみの中にそれを聴きに…」

が心によぎる、啄木もこんな感慨だったのではないかと思った。

その後北斗市が用意して下さった専用バスで市内見学、きじひき高原パノラマ展望台は生憎の天気で展望は望めず次の時までの楽しみとなった。我が故郷のガロウの景色の様変わりには唖然とし、心に残っていた景色との落差に悲しくもなったが普段は行けない所に案内して下さった北斗市とセメント会社には感謝、感謝です。

2日間のバスでの見学会は北斗市の石川部長さんのユニークなガイドとユーモア溢れる解説に車内は笑いの渦と明るさに満ち溢れた状態で癒やされ、楽しく、降りるのが嫌になる位でした。更に北斗市役所の方々が調理して下さったホッキ貝の手料理も美味しくて良き思い出となった。

今回の旅行の2泊3日は北斗市の方々の暖かい心配りで楽しく時間が過ぎるのが早かった。

